

富士北麓公園 施設概要

本公園は、富士山の北麓に、首都圏を対象とした180haの広域公園として昭和52年2月14日山梨 県告示第54-4号をもって都市計画決定となり、内31.6haを動的ゾーンとして都市計画事業決定(昭和52年3月16日、建設省告示第33-8号)され、運動公園の施設準備に着手、さらに本公園は、61年かいじ国体のサブメイン会場ともなり競技施設をはじめ、公園全体が国体会場として十分機能を発揮できるよう建設されました。

位 標 面	置 高 積	富士吉田市上吉田 990m~1,160m 全体180ha ・静的ゾーン(自然公園148.4ha) ・動的ゾーン(運動公園 31.6ha)
競 技 施 設 付 属 施 設		1. 陸上競技場 2. 野球場 3. 球技場 4. 体育館 1. 駐車場 2. 調整池 その他

各施設の概要

1 陸上競技場

第2種公認競技場としての機能を備えトラックは1週400m8コース、インフィールドは天然芝で、サッカー、ラグビーフットボールのグラウンドとして使用できる。(国体時は、成年男子ラグビーフットボール会場となる)

外周総面積	26,077㎡
フィールド総面積	20,100㎡
インフィールド面積	7,314㎡(69m×106m) 天然芝(野芝) オーバーシード(ペレニアルライグラス)
トラック	400m 8コース(全天候舗装)
メインスタンド	鉄筋コンクリート造り平屋建 (収容人員 1,105人)
バックスタンド	盛土芝生スタンド (収容人員約10,000人)
計	11,105人

2 野球場

両翼92m中堅120mで、センター後方に富士山が眺望できるようレイアウトされ、外野は天然芝、内野はクレイ舗装の本格的球場となる。(国体時は、成年男子軟式野球の会場となる。)

外周総面積	23,395㎡
グラウンド面積	13,088㎡
内野スタンド	鉄筋コンクリート2階建 (収容人員 3,957人)
外野スタンド	盛土芝生スタンド (収容人員 9,492人)
計	13,449人
内野グラウンド	クレイ舗装(混合土)
外野グラウンド	天然芝(野芝)

3 球技場

ラグビー及びサッカー競技を主体とするグラウンドで、80m×154mの全面天然芝生舗装のグラウンドとして整備されている。(国体時は、成年男子ラグビーの会場となる。)

外周総面積	20,000㎡
フィールド面積	12,320㎡ 天然芝(野芝)
スタンド	盛土芝生スタンド
管理棟	鉄筋コンクリート造り平屋建

4 体育館

公園の中心的施設で、管理事務所、メインアリーナ、サブアリーナ、トレーニング室、幼児及び高齢者体育室、健康体力相談室、会議室等を備えた総合的な体育館である。

構 造	鉄骨、鉄筋コンクリート造り2階建
面 積	建築面積 4,367㎡ 最大高26m
メインアリーナ	面積 1,794㎡(39×46m)天井高15m
サブアリーナ	面積 540㎡(30×18m)天井高8m
会議室	面積 180㎡(18×10m)区切可 大12m×10m 小6m×10m
幼児体育室	面積 77㎡(7×11m)区切可 7m×5.5m
観 覧 席	2階固定席 944人 立見席 500人 身障者席 20台 1階可動席 770人 計 2,234人

5 駐車場(小駐車場)

面 積	4,530㎡
収 容 台 数	普通車 136台 大型車 5台 計 141台
(体育館前駐車場)	
収 容 台 数	普通車 11台 身障車 10台 計 21台

付属施設概要

1 大駐車場

収 容 台 数	普 通 車	621台
	中 型 車	10台
	大 型 車	24台
	軽 自 動 車	1台
	身 障 車	9台
	計	665台
アスファルト舗装 便 所	面 積	20,300㎡

2 調整池

公園区域、各施設の開発により増加する雨水、土砂流に対処するため公園の北側に調整池をつくり災害を防止する。周囲には樹木を配し散策の場となる。

容 量	約30,000t
構 造	盛土土羽構造
放 水 路	コンクリート水路により宮川に放流

3 園 路

公園内の各施設を連絡すると共に散策の歩道としての機能を果たすもので進入路及び1号～7号園路として整備されている。

進 入 路 (メ イ ン)	延 長 160m	全 巾 (3.5+1.5+6.0+1.5+3.5=16.0m)
園 路	延 長 2,326m	全 巾 6. 0m

4 修景植栽工

高 木	1,650本
低 木	137本
寄 せ 植 え	5,604㎡
芝 生	5,025㎡

5 陸上競技場彫刻

緑あふれる富士の雄大な自然につつまれた大規模公園富士北麓公園の主要施設である陸上競技場前庭広場に、ランドマーク(目印)及び文化性の意味を併せ持たせた石像彫刻を設置することにしました。

県では、行政の文化化の一環として、人々の多く集まる施設に文化性を持たせる意味から、最近建設された主要施設には文化性の導入を考えておりますが、富士北麓公園においても、富士の雄大な自然につつまれた景勝地であることから、自然にマッチし、かつ引き立たせる彫刻を設置することとしたものです。

この彫刻は、塩山みかげ製で直径3メートルの円形の本体を6.45メートル四方の正方形の台座の上に設置したもので、「わ」と名付けられ、人の「和」、かいじ国体のスローガンであるふれあいの「輪」を意味し、円形の持つ温かさ、親しみやすさの表現を意図したものです。

なお、製作者の井上公雄氏は、甲府市在住の新進彫刻家で、昭和48年に二科展に初出品の後、次々と注目作を発表し、モダンアート展では、彫刻部門賞及び安田火災美術財団奨励賞を受賞しています。

作品の概要

1. 位 置	富士北麓公園陸上競技場メインスタンド前庭広場
2. 高 さ	本 体 3. 0m 台 座 0. 5m
3. 構 造	本 体 塩山みかげ石 台 座 インド産赤みかげ石
4. 完 成	昭和60年6月
5. 製 作 者	井上公雄氏(彫刻家)

6 モニュメント

富士北麓公園は、緑あふれるスポーツ型のレクリエーション空間として、県民はもとより、県外からの利用者をも対象とした大規模公園であります。このモニュメントは、富士北麓公園の中央部に建設されるモニュメント広場に、この公園全体のシンボルとして設置されたもので、雄大な富士山を背景に、さらには周囲の緑にもマッチするデザインであることを基本として選定されたものです。

このモニュメントは、21世紀に向けて発展する山梨県の姿をシンボライズしたもので、「発生と創造」と名付けられ、雄大な富士北麓の大地のうねりの中から天を突いて生命が誕生する様子(発生)を表す本体と、さらに人類が未来に向けて飛躍せんとする姿(創造)を象る天体を掲げたブロンズ像からなっています。

また、モニュメントの本体は、反射面と無反射面から構成され、反射面は、周囲の森林を反映し一種の幻想的な雰囲気を出すと共に、正面から見ると山梨県を表しています。

モニュメントの概要

1. 位 置	富士北麓公園中央部 モニュメント広場
2. 高 さ	本 体 8. 0m ブロンズ像 2. 2m
3. 重 量	本 体 476kg ブロンズ像 150kg
4. 構 造	基 礎 コンクリート・鉄筋組補強 本 体 FRP(強化プラスチック樹脂)仕上
5. 完 成	昭和60年3月
6. 製 作 者	企画・製作 (株)電通 製作協力者 奥村良弘氏(彫刻家)